



竹の子川柳会

まっすぐの線が書けたようらしいな
小二 優

ようかんはあまきぎつしりつまつてる
小二 隆希

がっこうでプールでおよぐたのしいな
小二 心香

たねをまきかぼちやがみのるみどりいろ
小三 勇斗

まっすぐなせんをかさねてうみをかく
小三 みるく

甘いかなたべてみたいなおつきさま
小四 心春

まっすぐなきみの心を夢にみる
小五 翔太

七色のにじがかがやくまどの外
小五 太清

暑い日に背泳ぎ中に見えた夏
中二 清也

夏コロナ泳ぎうばわれシヨックだな
中三 海士

泳ぎたい気持ち心の片隅に
中三 海斗

それぞれの個性の色を大切に
高一 ななみ

自分にはとことん甘くしています
高三 瑠依

どんな色心に灯る淡い恋
高三 ちひろ

ひよし川柳会

告白の返事は首が縦に振れ
伊勢本 恵

一杯のコーヒー恋の橋渡し
渡辺 光男

思い出のコーヒーの味ほろ苦い
水野すみこ

手作ケーキコーヒーセットのおもてなし
菅原 由紀

婆ちゃんと料理どれも手加減この位
木村 貞子

位置ずれてガラリと変わる万華鏡
大崎 五葉

親父殿方位に凝って家建たず
若宮 賢敬

お袋の丸い背中がいとおいしい
山本 雅之

倉一杯我が家を守る米袋
兵頭チヨカ

豊作でうれしい袋検査米
熊本 忠真

たえ忍びぐちを袋につめる母
中城 英雄

人という字になって支える老夫婦
山本 節

その昔の地位をいまだに鼻にかけ
川添 忠昭

農繁期収穫袋頼もしい
宇都宮 忍

鬼北の足跡をたどる



解説・等妙寺縁起と鬼北の「おに」伝説④

当地が「鬼北」と呼ばれる所以は、鬼北町南西部にそびえる鬼ヶ城山系にあることは広く知られています。その「鬼ヶ城」は鬼王・段三郎が大岩を引き寄せて造った城とも言われるように、伝説上の鬼王・段三郎は、私たちが鬼と聞いてイメージするような剛力無双な大男として伝わっています。今回はその伝説をいくつか紹介します。

【伝説1】曾我兄弟が父の仇を討った後、身を隠すところがなかったために、鬼王と五郎の主従は鬼王の故郷である目黒（松野町目黒）に落ち延びた。鬼王・段三郎が大岩を引き寄せて城郭を造り、鬼王主従が立てこもったことから「鬼ヶ城」と呼ばれるようになったという。現地踏査によって、現在の古鬼ヶ城と郭公岳の間の稜線上には実際に「鬼王の手形石」なる岩の存在を確認している。

【伝説2】等妙寺の開山僧、理玉和尚が等妙寺建立に適した場所を探し求めていたところ、鬼王・段三郎と名乗る、身長180cm以上の大男が突然現れ、約500kgの大岩を軽々と投げ飛ばし、寺院建立の適地を示したと伝わる。この大岩は「ひきの岩」と呼ばれ、かつては旧境内の入口付近にあったという。

【伝説3】鬼ヶ城山系の「正連寺駄場」という地点にある「タモト岩」と呼ばれる大岩は、鬼王の懐から落ちたと伝わる。【伝説4】滑床溪谷に「鼓岩」と呼ばれる巨大な岩があるが、曾我兄弟や鬼王・段三郎が力試しでこの岩を動かしたという伝説がある。



▲古鬼ヶ城と郭公岳の間の稜線上にある「鬼王の手形石」



▲正連寺駄場という地点にある「タモト岩」